

# 『ひゅーまん らいつ』第6号 (2021.8.30)

## ～人権とSDGs②～

2021年6月14日、最新のSDGsの達成・進捗状況を報告した『Sustainable Development Report 2021』が公開されました。この報告書は毎年公開され、世界各国のSDGsの達成・進捗状況を国ごとにランキングで示しています。それによると、日本は世界165カ国中 **18位** (2020年は17位) となっています。なぜそのような順位になっているのかを見ていきたいと思えます。

日本は、順位を昨年よりも1つ落としていますが、達成・進捗状況を点数化したもの(かっこの中にある点数)は、2017年を除き、着実に伸びています。ただ、点数を伸ばしながらも順位を落としているのは、他の国がよりSDGsの達成に向けて頑張っているからです。日本の順位を上げるためには、日本の政府や企業ばかりでなく、国民一人ひとりの創意工夫がより求められます。

SDGs達成・進捗状況ランキングの上位5カ国を右に載せていますが、いずれもヨーロッパの国で、SDGsをリードするのはヨーロッパの国々であるとまずは言えるのではないかと考えます。これら上位の国々は、順位の変動はありますが、一様に点数を伸ばしています。ドイツでは「SDGs?何をいまさら」という声も上がっているようですが、すでに、ドイツ国民の多くの思考そのものがSDGsに沿っており、行動が自然と作られているからこそその声ではないかと思うのです。













### 【日本の達成・進捗状況順位】

- 2016年：18位 (75点)
- 2017年：11位 (80.2点)
- 2018年：15位 (78.5点)
- 2019年：15位 (78.9点)
- 2020年：17位 (79.1点)
- 2021年：18位 (79.8点)**

### 【SDGs達成・進捗状況ランキング上位5カ国(2021)】

- 1位：フィンランド (85.9点) (2020年：3位 / 83.8)
- 2位：スウェーデン (85.6点) (2020年：1位 / 84.7)
- 3位：デンマーク (84.9点) (2020年：2位 / 84.6)
- 4位：ドイツ (82.5点) (2020年：5位 / 80.8)
- 5位：ベルギー (82.2点) (2020年：11位 / 80.0)

日本のSDGsの取り組みに対する具体的な評価は次の通りです。

グリーン評価 (達成している)		オレンジ評価 (状況悪化)		レッド評価 (最低評価)	
<p>4 質の高い教育をみんなに</p> 	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> 	<p>2 飢餓をゼロに</p> 	<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> 	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> 	<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> 
<p>16 平和と公正をすべての人に</p> 		<p>10 人や国の不平等をなくそう</p> 	<p>12 つくる責任 つかう責任</p> 	<p>14 海の豊かさを守ろう</p> 	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p> 
				<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> 	

人権問題に限ったところでは、特にレッド評価（最低評価）とされた目標4「ジェンダー平等を  
実現しよう」が気になるようです。詳しく見ていきます。

(1) 低迷するジェンダーギャップ指数

毎年、ジェンダーギャップ指数を世界経済フォーラムが発表していますが、2021年は120位/156か国中でした（右の表を参照）。さらに詳しく見れば、経済117位、政治147位、教育92位、医療65位と評価されています。

(2) ジェンダーギャップ指数が低い理由

- ① 政治分野における女性の参加割合が低い。過去50年間、女性首相が誕生していない。
- ② 経済分野における管理職の女性の割合が低い。パートタイムの職に就いている女性の割合は男性のほぼ2倍。女性の平均所得は男性より43.7%低い。
- ③ 教育と医療の分野では、日本と他の多くの国の差はつかなかった（世界経済フォーラムの分析を参考にした）。

(3) ジェンダー平等のために

①政治分野におけるジェンダー平等

平成30（2018）年議員立法で「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が制定され、今年度（令和3年度）に一部改正されました。現状その趣旨が政界や国民に浸透しているかは疑問です。海外の取り組みとしては「クォータ制」（民主的な政策決定のため女性等の少数派に一定割合の定員を確保する制度）を採用し、実績を上げています。

②経済分野におけるジェンダー平等

最近の新聞記事では、東証一部の上場企業のさらに上位の企業でも、女性取締役がいない企業が少なからずあったことがわかっています。ある新聞は、その企業名を公表し、ESG投資（第14号参照）の参考にしてほしいと書いています。その新聞社は、SDGsを本気で進めるべく、公表に踏み切ったものと考えられます。ジェンダー平等を推進している例として、日本にも拠点がある多国籍企業のユニリーバは、写真欄や性別欄がなく名前も姓だけを書けばよいという履歴書を使い、性の在り方に左右されない採用も積極的に取り組む姿勢が見えます。

③ジェンダー平等のための教育が果たす役割～隠れたカリキュラムを見逃さない～

最近のジェンダー平等への取り組みの成果として、公立高校入試の願書から性別欄がなくなったこと、公立高校の多くが混合名簿を採用したこと、女子の制服にスラックスを採用する学校が増えたことなどがあげられます。

しかし、男女に限っても、まだまだ学校の中では暗に男女を分けていることに気づかされます。例えば男子に「くん」付け、女子に「さん」付けすること、校内の役割分担で男女別にする、文理選択や進路指導で男女の差がみられること、教材が旧来のジェンダー意識によってつくられているなどがあげられます。一つひとつを考えて、是正していけるところから是正する取り組みが求められます。

順位	国名	値	前年値	前年からの 順位変動
1	アイスランド	0.892	0.877	-
2	フィンランド	0.861	0.832	1
3	ノルウェー	0.849	0.842	-1
4	ニュージーランド	0.840	0.799	2
5	スウェーデン	0.823	0.820	-1
11	ドイツ	0.796	0.787	-1
16	フランス	0.784	0.781	-1
23	英国	0.775	0.767	-2
24	カナダ	0.772	0.772	-5
30	米国	0.763	0.724	23
63	イタリア	0.721	0.707	13
79	タイ	0.710	0.708	-4
81	ロシア	0.708	0.706	-
87	ベトナム	0.701	0.700	-
101	インドネシア	0.688	0.700	-16
102	韓国	0.687	0.672	6
107	中国	0.682	0.676	-1
119	アンゴラ	0.657	0.660	-1
120	日本	0.656	0.652	1
121	シエラレオネ	0.655	0.668	-10

**SDGsウォッシュ（SDGsウォッシング）**

SDGsに取り組んでいるように見せかけるだけで、実態が伴っていないこと表す言葉です。例えばクリーンなイメージを使う石油企業や、リサイクル事業に取り組んでいるが二酸化炭素を多く輩出する企業などがその例です。学校で言えば、SDGsを語りながら性的マイノリティへの配慮がないなどを指すものと考えられます。SDGsを語るなら、その趣旨をしっかりと理解したうえで表明し、取り組んでその成果がSDGsの理念と目標やターゲットの達成に資さなければなりません。